



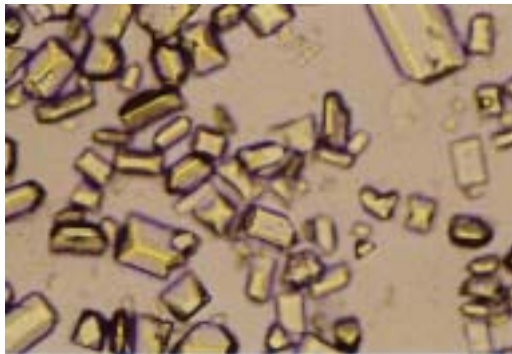
冬に多い病気

日に日に寒くなりつつある今日この頃です。人が寒さを感じるように、動物達も寒さを感じます。あまり寒すぎると体力を消耗し体調を崩す動物達が増えます。特に子供や老齢の動物は注意が必要です。最低限ワクチンが打ってあれば風邪などは予防できます。その中で今回はそれぞれの冬に多い病気を紹介したいと思います。

犬：ケンネルコフ(犬パラインフルエンザ感染症)

おもな症状は、咳をすることで、進行すると鼻水が出たり、更に悪化すると肺炎などを引き起こします。また子犬の場合は、食欲がなくなり衰弱して死んでしまうこともあります。感染経路は咳やくしゃみによる空気感染で、家庭でも1頭が発症すれば、多くの場合他の犬にも感染します。でも安心して下さい。定期的な予防接種が行われていれば、ある程度防ぐことのできる病気です。

猫：泌尿器症候群



猫ちゃんに多い膀胱内に石の結晶ができることによって、雄ではおしっこが出なくなったり、雌では、膀胱炎になって頻尿、血尿を起こしたりします。特に雄猫は要注意です。おしっこが腎臓に逆流し腎不全をおこして、時として死んでしまう場合もあります。もし我が家の猫ちゃんトイレに何回も行っている姿を見かけたら早めにご相談ください。

猫伝染性鼻気管炎



猫ちゃんが冬にかかる病気で一番多いのがこの病気です。この病気は主に目ヤニ、鼻水、くしゃみといった人間で言うと風邪の猫バージョンです。症状が進むと、熱を出したり肺炎になったりもします。感染経路は、胎盤感染、空気感染、接触したことによる感染です。たくさん猫を飼われてる家では蔓延したりもします。この風邪は、ワクチンによって発症を抑えますので、ワクチンを打ってあれば軽くすみます。

ウサギ

うさぎは、秋に換毛を行います。換毛期はうさぎにとって他の動物とは違い体力が著しく衰える時期になります。なるべく栄養価の高い食事を与え体力を温存しましょう。

そして冬はうさぎさんにとって寒いと思っている方、それは間違いです。思い出してください、うさぎが雪原を走っている姿を！ただ、温度差や隙間風などはストレスの原因となるので注意しましょう。



フェレット：インフルエンザウイルス感染症



人のインフルエンザウイルスが感染することにより起こります。症状は発熱、クシャミ、咳、鼻水(透明)で、合併症がなければ予後は良好ですが、ワクチンによる予防は困難です。このような症状がみられたら、早めに病院に連れてきてあげましょう。

ハムスター：偽冬眠

ハムスターは気温が5℃以下になると冬眠したようになります、これは偽冬眠といわれます。本来ハムスターは冬眠する機能がないので体力を消耗し、死につながることもあります。保温には十分気をつけてあげましょう。



低体温・凍傷

本来、犬や猫は長い被毛を持つため寒さには強いのですが、ペットの高齢化や病気を患っている子は特に注意が必要です。体温が35℃以下になると震えによって熱が産生できなくなってしまうのでいち早く獣医さんに診せる必要があります。特に家で使い捨てカイロで様子を見ることはやめてください。低温火傷を起こす可能性があるから注意してください。